

11月9日 一般会計 特別会計 決算特別委員会 しもおく議員が質問

警察 高齢者・障害者の安全対策 住民無視の警察職員沖縄派遣

音響信号やエスコートゾーンの拡充を

音響信号（ピコピコ・カッコーなどの音が出る）や、歩車分離式信号機、誘導型の点字ブロックを横断歩道内に設置したエスコートゾーンは、視覚障害者の方が安心して道路を横断できる施設で、設置が進められていますが、まだまだ不十分です。

しもおく議員は、早急な増設や障害者への周知を徹底するなど、高齢者・障害者の方に対する県の安全対策を強く求めました。

音響に加え、ボタンを押すと青信号が延長される機能やLEDで○や×が表示される機能などを複合的に備えた信号機が、試験的に設置され、大変好評です。「高額で財政面で厳しい」と県側は言いますが、命には代えられません。

しもおく議員は「障害者の命を守る対策」であると強調し、交通安全施設整備が大きく進むよう要望しました。

抗議する市民に牙を向ける警察派遣

沖縄高江の住民はヘリパッド建設に反対し、村とくらしを守るために戦っています。しかし機動隊による住民の強制排除が行われており、昨年、愛知県も含め全国から県警職員が派遣されました。

しもおく議員が、高江の現状についての県の認識を質したところ、県は「適正に職務を執行した」との答弁でした。全く住民の方を向いていない答弁であり、派遣が適切であったとの認識は本当に問題です。

また、ヘリパッド建設について、①住民の合意が得られていない②やんばるの森の生態系への悪影響③自然環境の破壊④オスプレイの住民への危険の4点をあげ「そもそも愛知県の警察職員が警備に従事したヘリパッド建設に大きな問題がある」と指摘し、「県民にとって適切な支出とは言えず、決算認定できない問題」と述べました。

健康福祉 障害者の差別解消と権利の確立 介護難民を増やさない取り組みを求める

障害者の差別解消を前進させること

精神障害者の社会参加を阻んでいる一つとして、交通運賃割引において、身体・知的障害者との差別があることが上げられます。愛知県は鉄道9社中、4社で実施されるなど、改善されつつありますが、全国的には、身体・知的障害者については9割の鉄道会社が割引実施をしているのに対し、精神障害者は3割にとどまっています。

しもおく議員は、精神障害者団体から「障害種別間の格差を是正してほしい」という声が上がっていることを紹介し、県に「都市型セクターの鉄道から実現するよう」求めました。

また、手話言語・コミュニケーション条例も含め、評価できる点と、問題点や課題があり、「今後とも障害者の権利が十分に守られ、差別解消が大きく前進していくこと」を強く求めました。

介護難民を増やさない介護保険事業を

2015年、介護報酬が2.27%マイナスと、9年ぶりに減少すると、デイサービスの数も翌年減少に転じた。そこで、しもおく議員が、介護報酬のマイナス改定による愛知県への影響を尋ねたが、県は「事業所の全体の総数は増加している。サービス量の不足などの苦情はない」と、全く関係者の声を聞いていない答弁でした。

しもおく議員は「給与が低く結婚できない」や、「子どもができたあと、家族を支えられないから離職した」との実態を示し、県の見解を質しました。県は「報酬改定の仕掛け作りとか、その手続きを国でやっている」と国任せの無責任な態度です。

最後に「今必要なのは報酬を元に戻し増額に転じること。県として政府に、現場の深刻な実態を訴えて改善していくこと」と強く要望しました。